

(8) 北アルプス地域 ～「人」と「食」がつながる北アルプス山麓の農業・農村

達成指標の進捗状況

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	2021年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	45歳未満の新規就農者数(単年度)	6人 ※1	8人	4人	8人
	中核的経営体数	332経営体	368経営体	429経営体	378経営体
2	水稲の低コスト・省力化技術栽培面積	13ha	130ha	227ha	150ha ※2 (95ha)
	信交酒545号(山恵錦)の栽培面積	0.5ha	19ha	25ha	35ha
	深水管理による酒米の品質向上・契約栽培面積	2ha	3ha	3ha	5ha
3	ワイン用ブドウの栽培面積	21.6ha	30ha	30ha	30ha
	加工・業務用野菜(ジュース用トマト、キャベツ、タマネギ)の栽培面積	12.2ha	18ha	12ha	20ha
4	地域特産物(ウド、クレソン、ニンニク)の栽培面積	1.1ha	4ha	2.3ha	6ha
	北アルプス山麓ブランド認定品数	99品	120品	123品	129品
5	「おいしい信州ふード」SHOP登録数	81店舗	97店舗	90店舗	100店舗
	学校給食における県産食材の利用割合	44.3%	47%	50%	47%
6	共同活動による農地等の保全面積(多面的機能支払+中山間直払)	3,743ha	3,917ha	3,920ha	3,959ha
	都市農村交流人口(単年度)	25,222人	27,000人	10,137人	27,845人

※1 2012年から2016年の平均値 ※2 2018年度実績が計画を上回ったため上方修正した

重点取組1：北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成

○人・農地プランに基づく認定農業者、農業法人、新規就農者、地域農業を支える担い手の確保・育成

- ・新規参入希望者、親元就農者に対する就農支援(就農相談13件)
- ・里親研修修了者の技術力・経営力の向上支援(里親研修修了生13件)

○北アルプス地域を支える中核的経営体の育成

- ・カイゼン手法導入等による、トップランナーを目指す経営体の課題解決支援(7経営体)
- ・農業経営者総合サポート事業による経営改善支援(12経営体)



【水稲春作業実態調査】

重点取組2：新技術の活用、高付加価値化、農地整備による競争力の高い水田農業の推進

○ICTを活用した生産効率化や高密度播種育苗等低コスト・省力化技術の実証・導入

- ・スマート農業導入促進事業による水田センサー貸し出し(4経営体に19台、アンケート)
- ・ドローンによる葉色撮影結果にもとづく「直進アシスト可変施肥田植機」を使った施肥技術の現地実用性検討(大町市、白馬村各1回)

○次代を見据えた農地の条件整備(区画拡大・用排水路埋設、自動給水栓設置等)の実施

- ・担い手の規模拡大を支援する経営体育成基盤整備事業の工事着手(27ha)、自動給水栓(二重地区：12基)

○酒造好適米の減産への対応

- ・代替品種として業販向け飯米の需要がある「つきあかり」の収量確保のため、安定多収栽培技術の実証ほを設け、栽培技術指導を実施(3回)



【可変施肥稲作試験】

重点取組3：実需者ニーズの高い園芸作物の産地づくり

○ 水稲複合経営を中心とした加工・業務用野菜（ジュース用トマト、タマネギ、キャベツ）の生産拡大

- ・ 生産安定に向けた排水対策及び省力栽培モデルほ場の設置（ジュース用トマト摘芯栽培試験 1か所）
- ・ 排水性向上、炭素貯留効果を目的とした「もみ殻暗渠」施工ほ場の設置実演（10月28日）



【もみ殻暗渠の施工状況】

重点取組4：北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興

○ 北アルプス山麓の立地条件や特色を活かした新たな地域特産物（ウド、クレソン、ニンニク等）の生産拡大及びブランド認定への誘導

- ・ クレソン生産モデル実証ほ（小谷村）にて、食葉性害虫の物理的防除による有効性を確認
- ・ 学校給食へのクレソンサンプル提供（12回）により、地元食材として認知度が向上

○ 北アルプス山麓ブランド認定品を含めた北アルプス山麓育ちの農産物の販売促進と誘客ツールとしての活用 ※北アルプス山麓農畜産物ブランド運営委員会等と連携

- ・ 台湾「裕毛家」との商談活動：令和3年6月22日（火）、商談成立
品目数：40品（内ブランド品12品）10事業者
- ・ 「北アルプス山麓物産展」の開催
○日時：令和3年11月20日（土）、21日（日）
○場所：台湾・台中市 裕毛屋「公益店」
現地へ渡航せず、裕毛屋独自で実施（北アルプスPR動画放映他）



【台湾での北アルプス山麓物産展】

重点取組5：多彩な観光資源を活用した食の地消地産と食育の推進

○ 宿泊施設と農家の相互理解による地元農産物の利活用促進と直売所を核とした宿泊施設や学校給食への地元農産物供給体制の構築

- ・ 信州サーモンの生産者、実需者による情報交換会の開催（12月）、メニュー提案（3件）
- ・ 信州サーモンが食べられる店チラシ作成（次年度活用）



【信州サーモン情報交換会】

重点取組6：暮らしの場としての農村の振興

○ 農村の多面的機能を維持発揮するための活動や集落コミュニティ共同活動を支援

- ・ 多面的機能支払事業や中山間地域農業直接支払事業の実施による農村集落における地域共同活動等への支援（多面的機能支払 3,729.69ha、中山間直接支払 576.3ha、重複 385.57ha）

○ 集落ぐるみで行う野生鳥獣被害対策への支援

- ・ 補助事業（鳥獣被害防止総合対策交付金）の活用による総合的な取組みへの支援（侵入防止柵の設置 新規：大町市平 1,200m、広域柵の管理支援 池田町：管理指導会 6月、マニュアルの配布 7月、補修指導会 10月）



【電圧不良対策の指導】

令和4年度実行計画

(8) 北アルプス地域 ～「人」と「食」がつながる北アルプス山麓の農業・農村

達成指標

重点取組	達成指標	現状 (2016(H28)年)	実績 (2020(R2)年)	実績 (2021(R3)年)	目標 (2022(R4)年)
1	45歳未満の新規就農者数(単年度)	6人※1	5人	4人	8人
	中核的経営体数	332経営体	385経営体	429経営体	378経営体
2	水稻の低コスト・省力化技術栽培面積	13ha	176ha	227ha	150ha※2 (95ha)
	信交酒545号(山恵錦)の栽培面積	0.5ha	17ha	25ha	35ha
	深水管理による酒米の品質向上・契約栽培面積	2ha	2ha	3ha	5ha
3	ワイン用ぶどうの栽培面積	21.6ha	28.4ha	30ha	30ha
	加工・業務用野菜(ジュース用トマト、キャベツ、タマネギ)の栽培面積	12.2ha	10.4ha	12ha	20ha
4	地域特産物(ウド、クレソン、ニンニク)の栽培面積	1.1ha	2.3ha	2.3ha	6ha
	北アルプス山麓ブランド認定品数	99品	116品	123品	129品
5	「おいしい信州ふード」SHOP登録数	81店舗	92店舗 (前年比+4)	90店舗	100店舗
	学校給食における県産食材の利用割合	44.3%	— ※3	50%	47%
6	共同活動による農地等の保全面積 (多面的機能支払+中山間直払)	3,743ha	3,837ha	3,920ha	3,959ha
	都市農村交流人口(単年度)	25,222人	14,952人	10,137	27,845人

※1 2012年から2016年の平均値 ※2 2018年度実績が計画を上回ったため上方修正した

※3 新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校の負担軽減の観点から調査を中止したため、実績値なし

重点取組1：北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成

- 人・農地プランに基づく認定農業者、農業法人、新規就農者、地域農業を支える担い手の確保・育成
 - ・ 新規参入希望者、親元就農者に対する就農支援(就農相談 随時)
 - ・ 里親研修修了者の技術力・経営力の向上支援(個別指導)
 - ・ 市町村推進チーム会議への参画、助言
- 北アルプス地域を支える中核的経営体の育成
 - ・ カイゼン手法導入等による、トップランナーを目指す経営体の課題解決支援(7経営体)
 - ・ 農業経営者総合サポート事業による経営改善支援(12経営体)
 - ・ JGAP適合基準等を活用した生産工程管理の導入支援(3経営体)
- 農地の利用集積による効率的経営に向けた支援
 - ・ 担い手の規模拡大に向けた経営体育成基盤整備事業及び農地利用効率化等支援交付金を活用した支援
 - ・ 農地中間管理事業を活用した中核的経営体への農地の集積、集約化の推進
- 農ある暮らしの推進
 - ・ 農ある暮らしサポート 直売所(大町市)の運営支援(ミニセミナーの開催：3回)

重点取組2：新技術の活用、高付加価値化、農地整備による競争力の高い水田農業の推進

- 地域に適應した県オリジナル品種等(ゆめしなの、風さやか、山恵錦、つきあかり)の導入
 - ・ 品種特性に応じた栽培技術指導(個別指導、研修会5回)
 - ・ 生育・品質調査の実施(5か所)と地域適應性の検討(1回)
- ICTを活用した生産効率化や高密度播種育苗等低コスト・省力化技術の実証・導入
 - ・ ドローンセンシング→可変施肥田植え→収量型コンバインの実用性の検討(3か所)

- 深水管理による酒米等の品質向上及び契約栽培による経営安定
 - ・ 酒米品質向上試験の実施（2か所）
 - ・ 酒蔵との契約栽培の推進（検討会2回）
- 次代を見据えた農地の条件整備（区画拡大・用排水路埋設、自動給水栓設置等）の実施
 - ・ 担い手の規模拡大を支援する経営体育成基盤整備事業の工事着手（8.5ha）
自動給水栓（スマート農業実証実験事業）4基
- 酒造好適米の減産への対応
 - ・ つきあかりの栽培技術指導（3回）

重点取組3：実需者ニーズの高い園芸作物の産地づくり

- ワイン用ぶどう栽培農地の基盤整備と生産安定・高品質化
 - ・ 高収益作物への転換を推進するための経営体育成基盤整備事業の実施（会染西部地区3.1ha）
 - ・ 病虫害防除等栽培技術指導（個別指導）、熟度調査等生育情報の提供（3回）
- 水稲複合経営を中心とした加工・業務用野菜（ジュース用トマト、タマネギ、キャベツ）の生産拡大
 - ・ 生産安定に向けた排水対策及び省力栽培モデルほ場の設置（1か所）
 - ・ 高収益作物の導入希望者の把握と導入計画の相談（5件）

重点取組4：北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興

- 北アルプス山麓の立地条件や特色を活かした新たな地域特産物（ウド、クレソン、ニンニク等）の生産拡大及びブランド認定への誘導
 - ・ クレソン生産安定実証ほの設置（小谷村1か所）
 - ・ 在来ニンニク種の生産安定（指導会1回）
- 北アルプス山麓ブランド認定品を含めた北アルプス山麓育ちの農産物の販売促進と誘客ツールとしての活用 ※北アルプス山麓農畜産物ブランド運営委員会等と連携
 - ・ 台湾への輸出、販路拡大に向けた物産展の開催（8、11月 台中市「裕毛屋」）
 - ・ 現地事業者（旅行エージェント、教育関係者、メディア）へのPR活動（11月）
- 北アルプス山麓育ちの産品の農産物輸出に取組む事業者への支援
 - ・ 市町村が取組む販路開拓を目的とした農産物輸出への支援活動（3回）

重点取組5：多彩な観光資源を活用した食の地消地産と食育の推進

- 宿泊施設と農家の相互理解による地元農産物の利活用促進と直売所を核とした宿泊施設や学校給食への地元農産物供給体制の構築
 - ・ 信州サーモンの他、イワナ、ニジマス等川魚を使った生産者、消費者による情報交換会の開催（産地見学会、調理実習等）
 - ・ クレソン加工向け出荷の取組み（メーカー地産地消商品、春・秋各1回）
 - ・ クレソン料理講習会（司厨士会連携）
 - ・ 給食への地域食材としての提供（小谷小中学校共同調理場、保育園）

重点取組6：暮らしの場としての農村の振興

- 農村の多面的機能を維持発揮するための活動や集落コミュニティ共同活動を支援
 - ・ 多面的機能支払事業や中山間地域農業直接支払事業の実施による農村集落における地域共同活動等への支援
- 集落ぐるみで行う野生鳥獣被害対策への支援
 - ・ 補助事業（鳥獣被害防止総合対策交付金）の活用による総合的な取組への支援
- 農業水利施設の長寿命化対策により、農業用水の安定供給を図り水田営農を支援
 - ・ 長野県農業水利施設等保全管理会議地域部会によるインフラ長寿命化計画（個別施設計画）の策定支援